フォーラム通信

こどもの森づくりフォーラム
定期リリース
（2024年９月号）

発行：こどもの森づくりフォーラム実行委員会事務局
〒146-0094 東京都大田区東矢口2－6－14 NPO法人子どもの森づくり推進ネット
tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081 Mailto:info@kodomoriforum.net https:www.kodomoriforum.net

フォーラム通信は、「こどもの森づくりフォーラム」の活動を盛り上げ、推進するネットワークづくりを目的に活動を支援する様々な団体や市民との情報共有のために発信します。

（目次）

１．フォーラム開催に向けて 東京農業大学 名誉教授 宮川 茂幸氏
２．講師からのメッセージ 田園調布学院大学 大学院 准教授 仙田 考氏
３．事例発表者紹介
　１）（株）今治．夢スポーツ 環境教育インストラクター 久保田 真依氏
　２）久万造林（株）代表取締役 井部 健太郎氏
４．連携団体紹介
　１）(有)タグプロダクト
　２）畑のがっこう
５．事務局からのお知らせ

「こどもの森づくりフォーラム in えひめ」開催概要

１．開催趣旨

１）子どもの「非認知能力（生きる力）」を育むための、「自然保育」や幼児期の森林環境教育の機運を高めます。

２）保育・幼児教育関係者と森林・林業関係者、さらに地域住民が連携して、地域における自然保育や幼児期の森林環境教育の支援体制を構築します。

３）フォーラム終了後も、レガシーづくりとして支援を継続します。

２．開催概要

１）開催日：2024年11月30日(土)、12月1日(日)

２）開催地：松山市民会館、えひめ森林公園、えひめこどもの城

３）主　催：こどもの森づくりフォーラム実行委員会
（林野庁、国土緑化推進機構、子どもの森づくり推進ネットワーク、ニッセイ緑の財団、愛媛県、愛媛の森林基金、松山市、伊予市、他、関連する法人、部局から構成）

４）後援（予定）：文部科学省、環境省、こども家庭庁、他、教育関係機関・保育関係団体・森林関係団体等の幅広い後援申請を通して、当該分野への訴求と幅広い告知等を実施。

１．フォーラム開催に向けて～森は生きる力を育む源～

東京農業大学名誉教授　／パネルディスカッションコーディネーター　宮林　茂幸

2023年7月国連のグテーレス事務総長は「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が到来した」と発言。2024年はこの120年間で一番暑い夏となった。なんと猛暑日が40日連続した市町村が各地で記録された。また、ゲリラ豪雨の発生個所も全国各地で9.3万か所とここ数年間で倍増している。

10号台風で明らかなように進路が日本列島を縦断する軌跡を描くとともに、風速70mの暴風など巨大化している。さらには2024年の幕開けと同時に能登半島は大震災に見舞われ、わが国は南海トラフトの危機が迫っている。

ITやAIを屈指した第四次産業化の推進によるロボット社会を目指す中で、市場原理を優先する資本主義社会は、国の根底である自然資本を壊し、過疎と過密によって住民生活を支えてきた暮らしのコミュンティをも消滅させてきた。その結果、現代社会は物質循環を優先した自然循環型の暮らしの基本を崩し、高度に発達した情報社会と個別消費化社会を進める中で、相互につながるコミュニティ社会を失いつつある。そのことは環境問題を急速に悪化させ、大切な共同の秩序を失いつつ進んでいる。それはむしろウクライナ侵攻やイスラエル侵略のような対立軸を露わにする結果となっているようにみえる。

先人たちは、もともと厳しい自然の中で、その一員として自らを研ぎ、自然から多様なことを学びそれを技・知恵に変えて、永遠と次世代につなぎ、地域特有の文化を形成し、発展させてきた。そこには、森林や木材利用の温故知新を優先する共助のコミュニティを形成してきた。そこでは森林や山河での体験による実践教育が重要な要であった。特に、森に生きる知恵、森を守り、使う技、森から学ぶ育みは、その時代を生きるための糧であり、社会文化形成の源であったといえる。

これからのSociety5.0の社会（サイバー空間とフィジカル空間の融合による人間中心の社会）を実現する担い手であるのが子ども達である。それはとてつもなく複雑な概念が絡み合い、自然資本とどのように関わり、付き合ってゆくのかなどについて、自ら考えて、共同で実現する「生きる力」を養うことが大切で、森林体験がそれを担うものといえる。

そのような中で「こどもの森」構想は、豊かで生きがいのある循環型の未来社会を創造する上で期待すること大であるとともに、全国において日常的に展開したい重点事業といえる。

宮林先生

２．講師からのメッセージ～「園庭に木を植える」大切さ～

田園調布学園大学大学院人間学研究科 准教授

国際校庭園庭連合日本支部 代表 / 分科会１コーディネーター　仙田　考

園庭は、園に通うすべての子どもたちにとって、最も日常的で身近な屋外あそび、学び、交流、そして生活の場です。教育要領、保育指針、教育・保育要領のなかでも、領域「環境」をはじめ、日常の生活の中で身近な環境にふれることの機会の重要性が述べられています。子どもたちが屋外で存分に遊ぶことのできる機会と環境が、子どもたちの好奇心・探求心、さまざまな育ちにつながっていきます。

幼児教育の父とも言われる倉橋惣三は、著書「幼稚園雑草」のなかで、幼児教育・保育の場所として、屋外の環境としての園庭、そしてそこでの外遊びの機会がいかに重要かを説いています。そして、当時を生きる子どもたちにとって、自由に外遊びできる環境やその機会が失われている危機感を示しています。この本は約100年前に書かれたものですが、園庭環境や自然遊びの大切さやその課題は、現代にも通ずるものがあります。

アメリカの海洋生物学者・作家であるレイチェル・カーソンは著書「センス・オブ・ワンダー」のなかで、「誰もが生まれながらにして持っている、神秘さや不思議さに目を見張る心＝"センス・オブ・ワンダー"」の大切さについて語っています。子どもたちが自然の中で情緒や豊かな感性を育むための時に大切か、だからこそ乳幼児期からの自然体験の機会やその環境が重要と考えられます。

また、その"センス・オブ・ワンダー"が失われないようにするためには、「子どもと一緒に再発見し感動を分かち合ってくれる大人が少なくても1人そばにいる必要がある」と語っており、この大人の存在は、家庭では保護者、園では保育者であり、子どもの“共感者”であるとともに、保育者自身も"センス・オブ・ワンダー"な心持ちのある“実感者”であることを願っています。

園庭の環境は園によってさまざまです。園庭がない園も多くあるでしょう。多くの園関係者は、子どもたちのために、園庭にもっと自然を取り入れられたらと思っていても、共用の園庭だからこそ勝手には変えられない、またはなにから始めていいかわからない、という想いもあるとお聞きします。

園庭環境は大きな変化も作ることもできますが、「1本の木を植える」という小さな変化から始めてみることもできます。今年の夏も記録的な暑さとなりました。地球的な気候変動から、6月から9月まで3か月以上、園庭で外遊びができにくい環境にもなりつつあります。倉橋が語る「外へ外へ」を再び実現できるよう、「木を植える」大切さを、みなさんとともに本フォーラムで語り、学び合いたいと思います。

３．事例発表者紹介

１）（株）今治．夢スポーツ　環境教育インストラクター　久保田　真依氏

※「しまなみアースランド」ホームページ　⇒　https://s-earthland.com/

（株）今治．夢スポーツは、しまなみアースランドの指定管理を受託しており、「自然にいこい、体験を通じて、自然との共生を学び、里山の自然資源と環境をいかす公園」というコンセプトのもと、公園運営や環境教育事業を実施しています。フォーラムでは事業の中から、「moricco（もりっこ）」という幼児向け自然体験型環境教育プログラムについてご紹介させていただく予定です。

皆さんは自然の中で遊ぶ際、『子ども達に何を伝えたらいいのだろう…』と思うことはありませんか？しまなみアースランドでは、園児向けのプログラムだけでなく、保育者向けの講習会も実施しています。大人も子どもも自然の中で遊び、一緒に自然への感謝と思いやりの心を育んでいきたいと思っています。

２）久万造林（株）代表取締役　井部　健太郎氏

※「黄金の森プロジェクト」ホームページ　⇒　https://www.zourin.com/ougon-no-mori/

久万造林では、10年ほど前から、事業のひとつとして「黄金の森プロジェクト」を始めました。この事業は、スギ・ヒノキだけでなく、様々な樹種を山に植えて、育てていくことです。これから、100年・200年と健全な森（健全な木々が育っている山）が続くためにその土地に合った、いろんな木を育てます。

このプロジェクトのもうひとつ大事な柱が、多様な植物が育つ自然に「人が入れる場所を造る」ことです。それは、林業だけでなく様々な人たちが山に入って、山が育つお手伝いをしてもらいたいからです。

木の時間軸は、人と比べて、とても長いサイクルで流れていきます。一人の人間の時間軸では、ついていけません。代々続けて、木と付き合っていく必要があります。

そのためにとても大切なことのひとつが、教育だと考えています。こども達が、いろんなカタチで木や森に接することで、次の世代へつながると信じています。まだまだ、具体的な活動が出来ていませんが、このフォーラムを機会に、いろんな方々と活動ができるようにしようと思います。

４．連携団体紹介

１）(有)タグプロダクト やのひろみ氏

※ホームページ：https://tug-product.com/

フリーパーソナリティ・ディレクターという仕事柄、イベントやロケ現場でも、また、自身も二人の子どもの母親として、PTA活動でも、多数の子どもたちと接する機会が度々あるが、その度に、大人である私たち自身も共に学ばせてもらっているなぁと痛感する。実は今日も、地元愛媛県内の小学校体育館と中学校体育館をハシゴして、小学6年と中学1年の子どもたちと汗だくで、教育委員会の方々と一緒にワーク授業に参加。びしょびしょのTシャツで帰ってきた。夏の体育館は業務用扇風機が全開だがとにかく暑い！そんな中でも、子どもたちは真剣に議論し、考えをまとめ、手を挙げて発表してくれた。

子どもたちは本質を知っている。私たち大人にできることは、それを体験したり実感したりする機会をどうサポートし、お手伝いできるか。例えば、自然に触れ合う機会。

愛媛県伊予市に「えひめ森林公園」という森があるがここは超絶オススメだ。アスレチックがありキャンプができて、森を散策できて、空へポンと飛んでいけそうなブランコがある。子どもたちともよく行ったし、去年はツアーでご家族の皆様とご一緒させていただいた。共に汗を流して森を歩き一緒に遊ぶと、参加してくれた子どもたちとも一気に仲良くなれるものだ。例えば、その自然を五感で感じる機会。

俳人正岡子規が生きた「俳都松山（愛媛県）」では、子どもたちも俳句を詠む機会がある。そんな時は、親の私も一緒に歳時記をめくって季語を探す。仮に山ひとつとっても四季の季語がある。春は「山笑う」。夏は「山滴る」。秋は「山粧う」。冬は「山眠る」。先人の言葉の彩りと自然の愛で方が素晴らしい。そうやって季語を探していると、植物も、農作業も、風も、自然豊かな季語に囲まれて生きていることに気づく。その発見を子どもたちと共有する時間は楽しい。

子どもたちの未来を想うとき、それは同時に**「いかに大人も共に学び気づき楽しめるか」**だと思う。子どもたちに何かを「与える」のではなく、大人の我々も「感じる」こと。子どもたちの背中を押して共感すること。子どもたちのためにも、自分たちのアンテナを錆び付かせることなく、その感度を常に磨き続けたい。

やのひろみ氏

※やのひろみ氏
(有)タグプロダクト 代表取締役
フリーパーソナリティ・ディレクター
※やのひろみ公式ブログ：https://yanohiromi.com/

２）畑のがっこう　門田ひろこ氏

自然栽培での田畑づくりを通し”食べることは生きること”を大切に、ものづくり・お話会・イベント等を発信！
子どもから大人まで、笑って、愉しく、面白く！
※ホームページ　⇒　https://hatakenogakkou.localinfo.jp/

育てているのは、私たちの未来とぼくらのおなか～畑や田んぼをみんなの遊び場キャンパスとして土を触り、風を感じ、水加減を見る。時には火を焚き、森からの恩恵に感謝し…、自分で考え、アイディアを出し対話をする。そんな体験経験をいっぱいします。

フォーラムを通して、一番身近にある食べることが、たくさんの手を経て、口に入り生きることにつながるのを身近に感じてくれたらなぁ…人生を耕す場に…地域型循環型コミュニティーづくりを目指します。

※門田　ひろこ氏
畑のがっこう　代表　松山市議会議員

５．事務局からのお知らせとお願い

１）お知らせ

2024年9月現在、分科会１、エクスカーションが定員に達しましたので、参加者の募集を締め切りました。フォーラム、分科会２は、申し込みを受け付けております。

２）お願い

●おかげ様で、分科会やエクスカーションについては応募状況は順調ですが、フォーラム全体としての応募数は少し停滞気味です。9月に入り、事務局としては参加者募集活動を加速させたいと思っております。実行委員会、講師・事例発表者、連携団体の皆様には、SNS等での参加者募集活動にさらなるご協力をいただけますようお願い申し上げます。

●そんな募集活動の一環として、フォーラムのフェイスブックを開設しました。
皆様の活動情報サイトとしてご活用願います。
⇒　https://www.facebook.com/profile.php?id=61565226737197

※右のQRコードからも入れます。　⇒